

## 外貨準備のデータから読み取れること

今月、IMF から 16 年第三四半期末の世界の外貨準備における通貨別内訳が発表された。外貨準備総額 1 兆ドルのデータから読み取れることは次の通りだ。

1. ドルは前期に続いて割合が若干低下した。63.28%。利上げ観測が台頭した時期にも関わらず低下したのは意外だが、大統領選を控えてドルのリスクを低下させた可能性もある。

2. ユーロの割合は20.29%とあまり変化がない。1年以上20%そこそこの割が続いている。27%程度をピークに減少してきたのだが、ここにきて低位安定した感がある。普通ならドルの受け皿として一番目の候補だが、それだけの信頼性はなく、かといってこれ以上の割合の低下は全体のポートフォリオ上難しいという判断が運用者にあるのかもしれない。

3. ポンドの割合は若干低下した。4.50%だ。BREXIT 決定の影響が考えられるが、低下傾向は3期前から見られる。経常収支赤字拡大や海外投資収益の減少など構造的問題が影響している可能性がある。

4. 円の割合は増加傾向にあり、ポンドと並んだ。もっとも2015年第2四半期に逆転された割合が再び追いついた。これは主にポンドの割合の増減によるものだ。円は安全通貨としての一定の需要が根っこにあると推測される。

5. カナダドル、オーストラリアドル、その他通貨の割合がいずれも若干増加した。これはドルやポンドからのシフトがユーロ以外の広範な通貨に分散されたことを示す。

次の第四四半期のデータは米国大統領選の結果を踏まえたものになるので興味深い。既に第三四半期のデータにその傾向が表れている可能性もある。